

2022

いざ、トラ年！

TORA

甲州台ヶ原宿・虎頭の舞の躍動



2018 Hokuto City

白州町台ヶ原宿に古くから伝わる「虎頭の舞」。2頭の虎に扮した4人が、笛や太鼓に合わせて舞う。江戸期の文献に残るもの、幕末の動乱で一時はとだえた舞を、平成になって地元の有志が復活させた。

再興から三十年余り、寅年の今年にちなみ伝統を守る演者たちの思いに迫る。

2頭の虎が横たわっている。
もぞもぞと足や頭を動かしながら少しずつ起き上がっていく。
そのうち笛の葉をとってむしり食む。
まだ眠いのか、あくびをしながらじらぐ。
おどろしさがあるかと思えば、なんどろく親しみを覚えるような愛らしいじやれあの場面もある。

笛の音がゆったりと流れている。

白州台ヶ原宿に伝わる虎頭の舞、「寝起き」という演目の冒頭だ。頭を担当する前部の演者とお尻を担当する後部の演者の息がぴったりと合い、虎のしなやかでコミカルな動きがみごとに表現される。異形のものである虎の大仰なかぶきで、幼い子が悲鳴をあげるようなおどろくおどろしさがあるかと思えば、なんどろく親しみを覚えるような愛らしいじやれあの場面もある。

なぜ「虎」の舞？

縁起担ぎの類似の舞としてむしろ広く知られているものに獅子舞があるが、台ヶ原で虎舞が行われるようになつたのにはどうある言い伝えがある。その昔疫病、風水害、火災の厄除け祈願に獅子舞を献じ、たまたま虎に似た石の上へ獅子頭をのせたところ、異変が起きた。恐れをなした村人は虎頭にて舞を改めたところ、祟りは収まったという。あるいは、台ヶ原地区の「田中神社」

チーフにし、部員の小野と大久保が情緒を感じさせるメロディを篠笛（和笛）で表現。それを譜面に起こし本調子と名付た。

夫婦の曲は大久保が、寝起きの笛だけの曲は小野がそれぞれ作曲。絶えかけた伝統に新たな命が吹き込まれた。

地域の「こんだから

現在舞には小学生から社会人まで約30人が参加している。月に1回の合同稽古に加え、自宅での自主練に取り組み、祭りやイベントでの本番に備える。親子3代で虎舞に携わってきた高垣直威さん（父・直之辰さん（長男）は発足メンバーでもある直威さんの父の舞を引き継いできた家系だ。息子は4歳のときから舞をやってましたね。じいちゃんにあこがれたんでしょうね。強制する、されるわけでもなく、地域のこんなだから、と親子で自然に参加してきました。子どもでも持てる小さめの軽い虎頭も用意し、子どもクラブの行事の中に虎舞体験会を取り入れるなど、自分たちの町の伝統芸能に触れる機会を積極的に設けてきた

のも直威さんが子どもクラブの役員の頃からだ。「高校のときは部活のあと舞の稽古に参加と忙しかったけど、やめようとは思わず自分で自分の暮らしの一部になつてました」と直之辰さんもふりかえる。今では下の世代の指導も行う頼れる若演者だ。



田中神社本殿の虎の彫刻と、拝殿側にある虎石社。
形が虎に似ている靈石として伝承されている。

がお茶壺道中の「茶壺」の宿泊所で、徳川現家康公が寅年であったことから、お茶壺様の旅の疲れをいやすために虎舞が奉納されたという説もある。いずれにしても全国的に残る異形の民族芸能として希少なものだ。4つの舞「本調子」「女郎」「寝起き」「田中」は、毎年地元の神社、田中・荒尾神社秋例祭（9月22日、23日）に奉納される。ケ原宿の各戸をまわる。また、七賢の藏開きや台ヶ原宿市、結婚式など、地元で行われる様々なイベントでも演じられてきた。



虎頭の舞保存会会長
岡村哲雄さん



伝統芸能、再興秘話

元祖の虎舞がどのようなものであつたか、実演は明治初期にとだえてしまつたが、平成に入りふるさと創生機運が高まり、言い伝えをたよりに虎舞を再興させようという動きが生まれた。平成3年6月、「甲州台ヶ原宿虎頭の舞保存会」を発足。6代目会長の岡村哲雄さんが当時の思いを語ってくれた。「台ヶ原の中堅世代（25～50歳位）の無尽の集まりの中で、虎舞つていうのがあるらしいから復活させよう!」と言出したのが最初でした。もともとこの集まりは消防やソフトボールなど様々な地域活動で一緒だった仲間同士。企業の代表や、自営業、公務員、サラリーマン、いろんな立場の衆だけ、普段から結束が固いのでみんなすぐ意気投合しました。

現存する虎舞は東北の海沿いに比較的多く伝わっており、再興するにあたって釜石などの舞を研究しながら独自の舞を模索する日々が何年も続いた。一つだけ残つていたものを模して、虎頭も新調。また、白州の大坊地区に伝わる「馬八節」の旋律をモ



提供：北杜市「水の山」映像祭実行委員会

『虎をかぶりて、駆けてく』
甲州台ヶ原宿虎頭の舞を題材にした、第一回北杜シナリオコンクールグランプリ受賞作品の映画化。
平成30年に「水の山」感謝祭にて上映されたほか、市内の図書館でDVDを貸し出し中。「虎頭の舞」をめぐり、悩み成長する女性を描いた物語で、キャストは市民からのオーディションで選ばれ、制作スタッフ、エキストラも市民が担つた。保存会のみなさんも実際に指導し、出演するなど撮影協力している。虎舞がたっぷり堪能できるおすすめの一作！

